

# 2025 年度事業報告

一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会

## 1. 会員状況

2026年4月1日現在、正会員 A 282 社、正会員 B 190 社、正会員 C 4,104 社 計 4,576 社となっている。

## 2. 事業報告

### (1) 会員活動

#### a. 会員交流 (★:2025 年度新設)

2025 年度もそれぞれの活動の充実、活性化を図り、推進した。

##### (a) フォーラム

合計 346 名の方が参加、同じお立場ならではの共通の視点で意見交換を行った。

※( )内は活動チーム数

IT部門経営フォーラム、ITグループ会社経営フォーラムについては、年に1度、JUAS スクエアのフォーラムセッションや JUAS アカデミーご登壇などを通じた情報発信へご協力いただいた。

- ・CIO エグゼクティブフォーラム(1)
- ・IT 部門経営フォーラム(6)
- ・IT 企業トップフォーラム(3)
- ・IT グループ会社経営フォーラム(4)
- ・IT グループ会社人材育成フォーラム(1)

##### (b) 研究会

2025 年度は、新たに立ち上げた「デジタル職人研究会」「企業情報セキュリティ研究会」を含めた、下記 15 の研究会を設け、496 名の方々が参加、活動した。

5 月末からスタートし、会場／オンライン等、状況に応じた多様な方法で開催した。また、希望があった 11 研究会については、合宿を 8 月・9 月・10 月の 3 回に分けて実施した。

また、5 月・12 月に「研究会幹事団共有会」を実施、研究会運営の方向性を共有し、加えて他の研究会の幹事団との情報共有、日ごろの悩みや運営上のアイデアの共有を実施した。

2026 年 4 月 9 日より、JUASWEB サイトでの成果報告資料の公開に加え、『JUAS web channel』にて、各研究会の報告動画を一齐公開する形で成果を報告した。

※研究会、研究プロジェクト、アドバンスト研究会、PARK2.0 成果を公開、一部を除いて 1 年間掲載予定 <https://www.youtube.com/@JUASwebchannel>

- ・ビジネスデータ研究会
- ・IT インフラ研究会
- ・サービスマネジメント研究会
- ・IT 投資ポートフォリオ研究会
- ・組織力強化研究会
- ・システム開発・保守 QCDs 研究会
- ・AI 研究会
- ・トランスフォーメーション(X)研究会
- ・人材育成事例(HRCS:Human Resource Case Study)研究会
- ・製造業 DX 推進アプローチ研究会
- ・デジタルマーケティング研究会

- ・ビジネスリレーションシップ研究会
- ・女性ビジネスリーダー研究会
- ・デジタル職人研究会★
- ・企業情報セキュリティ研究会★

### (c) 研究プロジェクト

以下のプロジェクトを実施した。

- ・基幹系システムアジャイル適用研究プロジェクト  
2022年から活動し、基幹系にアジャイルを適用する際の4つの壁について成果をまとめてきた。  
2025年度は、年間3回のJUASラボを通して活動内容の発信、浸透、事例収取、議論を深める活動を行った。プロジェクトメンバー6名、JUASラボへの参加者はのべ65名だった。  
2025年で活動を完了した。

### (d) 未来ビジネスフォーラム

各社のデジタル化への対応について、様々な立場の方(CIO経験者をはじめとした有識者)の参加を得て情報交換を進めた。2023年度からは2グループで開催、23名が参加した。

2025年度は初めて最終回を合同開催とし、各社のミドルマネージャーやリーダークラスの方の参加を得て、議論をした。

### (e) アドバンスト研究会

個別グループでの設立申請を受け、審査を経て活動する。

2025年度は下記5つの研究会を実施した。オンライン成果報告会(Jフェス)として、『JUAS web channel』にて、報告動画を公開している。

- ・MX研究会～BEYOND DXリーダー自己育成～★
- ・BX by Digital 研究会★
- ・サステナ×DX研究会★
- ・データエクスペリエンス研究会－ Data and beyond
- ・情報共有研究会

### (f) 情報セキュリティWG

情報セキュリティに関する課題とその解決方法の共有を目的に、情報セキュリティをマネジメントする立場から、事例紹介・意見交換等を実施している。

2025年度は、「共助で取り組む情報セキュリティ社会の実現」をテーマに、マネジメントWG、ソリューションWG、という2つのWGを開催、それぞれ18名、21名、合計39名の参加を得た。また、それぞれのWGに深掘り検討会を設定し、個別検討テーマについての事例調査等を深く議論する活動を追加した。

あわせて、経産省・IPAとの連携を意識し、サプライチェーンマネジメントのテーマを設定し、各社の実態調査を行った。会員企業のセキュリティへの関心が高まっていることから、今年度より成果報告書を会員企業に公開予定である。

それぞれのテーマは以下の通りである。

- ・マネジメントWG  
サプライチェーンのセキュリティ、グループ会社ガバナンス、内部不正対策、インシデント事例(深掘りテーマ)  
取引先のセキュリティ実施状況調査の事例研究、グループ会社(海外含む)ガバナンスの事例研究、インシデント訓練の事例研究、ランサムウェア攻撃を想定したインシデントシミュレーション、IT資産管理の現状と課題、内部不正対策としてのツール活用の事例研究

・ソリューション WG

生成 AI のセキュリティ、インシデント対応・訓練、IT 資産管理・構成管理、  
クラウドサービスのセキュリティ

(深堀テーマ)

AI を活用した業務効率化の事例研究、インシデント訓練の事例研究、ランサムウェア攻撃を  
想定したインシデントシミュレーション、セキュリティ人材育成方法の事例研究、  
IT 資産管理の現状と課題、工場セキュリティの事例研究

## (g) 関西

前述の IT 部門経営フォーラム関西、IT グループ会社経営フォーラム関西のほか、2021 年度から、「PARK 2.0 (The place of advanced relationship in Kansai)」として、ミドルマネジメントの情報交換、交流に留まらず、ミドルマネジメントの視点から共通する課題についてより踏み込んで議論し、その成果を発信することを目的に、活動している。

2025 年度は 26 名が参加し、「ナレッジ活用」「業務改革」「人事・組織」「データ分析」という 4 つのテーマについて検討した。集合開催を主として活動し、9 月に合宿も実施した(研究会合宿と同日・同会場で実施)。研究会と同様に『JUAS web channel』にて、報告動画を公開した。

## (h) JUAS アカデミー

IT に関する最新技術、関連施策に加え、業界や市場の動き、海外動向、経営に適用し得る考え方等の会員企業の皆様に知っておいていただきたいテーマに関して、会員限定の勉強会として開催している。

2025 年度は、JUAS 活動(研究会、フォーラム)主催の JUAS アカデミーと、IPA と共催した JUAS アカデミーを開催し、のべ約 1,900 名の方に参加いただいた。IPA との共催アカデミーについてはすべて、その他のアカデミーについては登壇者が了解すれば、アーカイブの JUAS アカデミーとしても配信を行った。

<実施 JUAS アカデミー>

- ✓ 未来を創るトランスフォーメーションの原点【アーカイブ配信】 竹林 一氏 (4/1-4/30)
- ✓ 研究活動成果報告会(J フェス)【録画視聴 YouTube+資料提示】 4/10
- ✓ 情報グループ会社人財の採用・育成・人事制度について【オンラインライブ】 山本 学氏 8/21
- ✓ 顧客と共に実現するトランスフォーメーション【オンラインライブ】 津田 匡保氏 8/28
- ✓ 顧客と共に実現するトランスフォーメーション【アーカイブ配信】 津田 匡保氏(9/2~9/30)
- ✓ AI/デジタル技術の最先端【オンラインライブ】 岡田 隆太郎氏 9/11
- ✓ AI/デジタル技術の最先端【アーカイブ配信】 岡田 隆太郎氏 (9/16~10)
- ✓ 今ある資源から価値を創る~エフェクチュエーション実践【オンラインライブ】 吉田 満梨氏 9/19
- ✓ 今ある資源から価値を創る~エフェクチュエーション実践【アーカイブ配信】 吉田 満梨氏 (9/29~10/31)
- ✓ DX 推進による企業価値向上の取組み~経営と事業が一体となったデジタル変革の加速について~【オンラインライブ】 柴田 雅博氏、矢吹 哲郎氏 10/16
- ✓ 情報グループ会社の人財育成・リテンション【オンラインライブ】
- ✓ 古川 武義氏、金子 浩章氏 10/22
- ✓ 開発部門における AI 活用事例紹介【会場・オンライン同時開催】井尻 周作氏 12/18
- ✓ AI Work Transformation~AI 時代の働き方変革【オンラインライブ】 國本 知里氏 12/18
- ✓ AI Work Transformation~AI 時代の働き方変革【アーカイブ配信】 國本 知里氏 (12/23~1/31)
- ✓ IPA×JUAS 企業における DX 最前線【オンラインライブ】 我妻 璃奈氏 8/25
- ✓ IPA×JUAS 企業における DX 最前線【アーカイブ配信】 我妻 璃奈氏(9/3~10/5)
- ✓ IPA×JUAS AI セーフティの世界的動向【オンラインライブ】 山本 悠貴氏 2025/9/11
- ✓ IPA×JUAS AI セーフティの世界的動向【アーカイブ配信】 山本 悠貴氏(9/16~10/15)

- ✓ IPA×JUAS 情報セキュリティ白書【オンラインライブ】 小山 明美氏 10/27
- ✓ IPA×JUAS 情報セキュリティ白書【アーカイブ配信】小山 明美氏 (10/28～11/30)
- ✓ IPA×JUAS AI・DX の流れを支えるために求められる人材育成とは【オンラインライブ】
- ✓ 柴崎 美奈子氏 11/20
- ✓ IPA×JUAS AI・DX の流れを支えるために求められる人材育成とは【アーカイブ配信】
- ✓ 柴崎 美奈子氏(12/1～12/31)
- ✓ IPA×JUAS ウラノス・エコシステム、オープンデータスペースなどの国の政策の最前線を
- ✓ 【オンラインライブ】 松永 博充氏 12/3
- ✓ IPA×JUAS ウラノス・エコシステム、オープンデータスペースなどの国の政策の最前線を
- ✓ 【アーカイブ配信】 松永 博充氏 (12/12～1/12)
- ✓ IPA×JUAS 産業サイバーセキュリティの現状と課題【オンラインライブ】 小宮 功氏
- ✓ 2026/1/28
- ✓ IPA×JUAS 産業サイバーセキュリティの現状と課題【アーカイブ配信】 小宮 功氏
- ✓ (2026/2/12～3/15)
- ✓ IPA×JUAS 国内外のデジタルトレンドと戦略【オンラインライブ】 水落 佳名子氏 2026/2/17
- ✓ IPA×JUAS 国内外のデジタルトレンドと戦略【アーカイブ配信】 水落 佳名子氏
- ✓ (3/3～3/31)
- ✓ 新しい価値をデザインするためのシステムアーキテクチャー【オンラインライブ】白坂成功氏(3/18)

## b. 個人情報保護など情報管理基盤の整備と制度運用事業

### (a) 「認定個人情報保護団体」活動

2018年9月12日に認定保護団体として活動を開始し、2025年度も前年度に引き続き、C会員を中心に登録を受付し、苦情相談等を実施している。

2026年3月末時点で、登録事業者は996社となった。苦情対応件数は4件であった。

### (b) プライバシーマーク審査事業

会員企業を対象にプライバシーマークの審査、付与等を実施している。

2025年度のプライバシーマーク取得を希望する【申請件数】は、年度初、2,123件、第3回理事会時(10月)、2,046件を見込んでいたが、最終的には、2,084件となった。

一方、【審査件数】は、年度初:2,130件、第3回理事会時(10月)、2,055件を見込んでいたが、最終的には2,114件となった。円滑に改善対応が進み、これまでより短期に審査を終えることができるようになってきている。

定常的な申請・審査件数が今後も見込まれる一方、現状の審査員の高齢化により審査可能件数の減少が想定されるため、新規審査員募集の継続、審査員育成の仕組みの強化、審査員グループリーダーの新体制構築(3名のグループリーダーの交代)、レビューの新体制構築(3名の追加)に取り組んだ。

新規審査員募集については、審査員同士の紹介に加え、フォーラムや研究会などでも募集し、10名と新たに審査員として契約した。(一部次年度の募集枠を前倒して契約している。)

審査員育成の仕組みの強化については、従来先輩審査員からのOJT指導に加え、審査基準の改定(JISQ15001:2023 準拠のプライバシーマークにおける個人情報保護マネジメントシステム構築・運用指針に改定)に伴い、審査員マニュアルの改定、周知、徹底活動に引き続き注力した。(当該審査基準による審査は、2024年10月に受付を開始)

審査員グループリーダーの新体制構築については、2025年度は8名体制で運営したが、2026年も8名体制を維持することとし、3名が70歳到達により契約終了となることから、3名の新任グループリーダーを選抜し、2026年4月の新体制発足に向けて、1月より業務習得、引継ぎを開始した。

レビューの新体制構築については、報告書のチェックや報告書の書き方指導を拡充するため、3名を追加で選抜し、2026年4月から10名体制とした。

審査業務基盤整備を目指した「プライバシーマーク審査業務刷新に向けた業務改革・IT化構想」については、申請事業者(会員企業)とJUAS間の情報授受の電子化の第2ステップを2025年8月に無事稼働させ、JUASと事業者との主要なやり取りはすべて、当該システム「P-One」で実施することとなった(請求書、現地審査案内、付与適格決定通知他)。スタッフの業務効率化(事業者に送付するメールや郵送物のダブルチェック作業の削減等)が進んだ。

会員向けサービスとしては、オンラインでのプライバシーマークカンファレンスを2025年11月に開催した。テーマを『「防ぐ力」と『備える力』で事故に強い組織へ』とし、基調講演では、独立行政法人情報処理推進機構(IPA)より「情報セキュリティ10大脅威とその対策【組織編】」について事例を紹介しながら、分かり易くご説明頂いた。一般講演ではJUAS審査員より「個人情報の事故等に関するPMS上の視点-PMS構築・運用指針 J.4.4.2 緊急事態-」と題して、緊急事態の対応、事故報告に焦点をあてて解説した。会員企業にとって関心の高い内容だったため、全体の視聴数は前年比134.6%となった。また、プライバシーマークに係るPMSの構築相談等の各種会員サービスも継続して実施している。

## (2) 教育研修事業

### a. オープンセミナー

2025年度も、オンライン、会場、ハイブリッド、動画セミナーという4つの形式でセミナーを開催した。年間では、オンライン/会場/ハイブリッド 225本(3,188人)、動画は18種類 81本(531人) 計306本を開催した。(2024年度開催数は256本)

1 オープンセミナー受講者数平均(動画除く)は、2024年度の13.9人から14.16人へと微増している。

生成AIを活用する講座(要求定義、提案書作成、AIエージェント)などの最新技術動向への関心が高まっているほか、依然としてプロジェクトマネジメント系講座の受講者数が多い。

<オープンセミナー開催実績>2026年3月31日時点

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
開催数	175本	210本	235本	245本	256本	306本
受講者数	1,691名	2,533名	2,937名	3,479名	3,467名	3,719名

2025年度より、ユーザー企業の情報システム部門、DX部門に求められるスキルや考え方などをJUAS独自の視点で整理した「JUAS研修分類」を新たに設定し、セミナーを検索できるようにした。

また、2025年度は初めて、会員企業限定での「人財育成担当者交流会」を開催し、特別講演のほか、参加の皆様で意見交換を行った。5月、2月共に80名を超える参加があった。

#### ◆人財育成担当者交流会(2025年5月)

特別講演「人材開発の基本と実践」

株式会社市進コンサルティング 代表取締役 細谷幸裕氏

#### ◆人財育成担当者交流会(2026年2月)

特別講演「AIファーストカンパニーを目指す関西電力におけるDX人財育成と組織風土改革の取り組み」関西電力株式会社 IT戦略室長 上田晃穂氏

### b. コース型研修 (★:2025年度新設)

複数日の開催で、情報交換や他流試合が可能なコース型研修として、中堅層を対象に以下のコースを開催した。

#### (a) 変革リーダーシップ勉強会

徹底的に考え、想像力を働かせ自分なりの答えを導き出し、自信をもってそれを実行に移すことができる変革リーダーの養成を目指すコース。2023年度より開催。

第一線で活躍するCIO、CHRO、起業家の講義研修、滋賀県高島市の「ホンモノの地域課題」に取り組む2泊3日の宿泊研修、コーディネーターとの1on1ミーティングで構成し、6月より開始し、20名の受講生が参加した。

#### (b) 女性リーダー勉強会【朝活オンラインコーチング+会場2日】

朝活オンライングループコーチングは、約2か月間の毎週1時間のオンラインで集まり、毎週、参加者各自の目標を立て、それに対し結果を振り返るとともに、お互いの気づきを共有する。1グループ4名にはJUAS会員企業の女性管理職がファシリテーターとして加わり、他者の視点も取れ入れながら内省することで、視座や実行力を高めることを目指しており、2025年度は第7期となった。

また、週次のグループコーチングのほか、実際にIT分野で活躍している女性リーダーとの意見交換、また、今年度より集合型研修として、リーダーに求められる「問題解決力」「自分ブランド構築力」向上のための講座も設け、開催した。(19名参加)

### (c) JUAS カフェ

実際に活躍しているビジネスパーソンをカフェマスターとして招き、講義、対話による多面的思考、積極的な意見交換による人脈ネットワーク構築を目的として、計 3 回コースを 11 月に会場開催した。2025 年度のテーマは「チームリーダーに必要なスキル」とし、第 1 回はワークショップ、第 2 回、第 3 回はカフェマスターを招き、第 1 回の体験を活かしながら、意見交換を行った。(16 名参加)

### (d) 情報システム部門のための IT アーキテクト養成講座

複雑化した社内システムの全体像を可視化し、企業目的を最適に実現する IT の適用の姿を構想し、その構築のステップを策定するアーキテクトを養成するための 4 日間コース。2025 年 7 月に、第 3 期を開催(12名参加)、11 月に第4期を開催した(13 名参加)。

### (e) 基幹システム再構築プロジェクト推進者養成講座★

DX の障壁となる基幹システムのブラックボックス化解消をテーマに、データとプロセスの両面から再構築の方法論について演習を通じて習得する 4 日間のコースを開催。2025 年 7 月に第 1 期を開催した(15 名参加)。

### (e) デジタル時代のビジネス変革に貢献する、 変革プロジェクトマネージャー育成コース講座★

激変する社会に適応し、デジタル変革を推進し、価値創出を成し遂げるプロジェクトマネージャーになるための、デジタル時代のビジネス視点、リーダーシップ力、プロジェクトマネジメント力を獲得する転換教育する 4 日間のコース。2026 年 2 月に第 1 期を開催した(16名参加)。

## c. 新人・配転者向けプログラム

2025 年度の新人・配転者向けプログラムは、IT の基礎を学ぶ基本コースを 6 月 16 日より 7 月 11 日までの 20 日間、プログラミングの基礎を学ぶ実機演習コースを 7 月 14 日より 8 月 8 日までの 19 日間で開催した。

基本コースは、リピーター企業からの申込みも多くあったが、新規企業も 2 社から参加があった。合計 20 社 50 名の受講人数となり 2023、2024 年度に引き続き 2 クラス同時開催を行なった。受講形態としては会場とオンラインを昨年は半々程で行っていたが、極力対面開催を行なうように変更した。講義・PC 作業の多い 2 講座のみオンライン開催とし、受講者同士がよりコミュニケーションが図れるようにした。

例年プログラム後半の日程で行なっている基本コースの集大成ともいえる 6 日間連続の情報化プロセス体験研修講座は、50 名が同じ日程で一度に講座を受けられるように実施し、研修効果向上を目指した。

実機演習コースは、4 社 12 名の受講となった。補助の講師を入れ、受講者一人ひとりの理解度が高くなるよう講義や演習を行った。チームにより、生成 AI を使う姿勢が見られた。フォロー体制の強化にも努めた。

加えて、基本コースと同内容のオープンセミナーの講座を受講できる「速習コース(8 日間)を、夏速習(7 月)、秋速習(10 月)として 2 回開催した。

## d. 教育研修の受託・講師の派遣 (企業内研修)

企業の要望に応じて研修を提案し講師を派遣する企業内研修は、リピーター企業からの依頼を中心に実施した。

2025 年度は 15 件を開催した。聴講型講義だけでなく、演習中心とした講座の要望が多い。内容としては、ボトムアップを目的とした「プロジェクトマネジメント強化」「文章力強化」「ロジカルシンキング」といった定番コースが中心となっている。

## e. 普及出版

出版物は、現在約6種類を配布・販売している。毎年発行している「企業 IT 動向調査」は、2020 年度より、JUASWEB サイトでも全文公開している。

## f. ミニ研修 (JUAS ラボ)

実験的なテーマについて、ミニ研修として紹介する「ラボ」を実施している。

2025 年度の開催実績は以下のとおりである。生成 AI を使ったデータモデリングなど、新たなテーマに取り組んだ。

- ✓ 持続可能な IT 運用保守:ビジネスの安定と成長の鍵【会場】 6/17
- ✓ 心理的安全性を実践しよう ABD アクティブ・ブック・ダイアログ【会場】 7/9
- ✓ アジャイルの未来を、共に切り拓こう！(1)【会場】 8/5
- ✓ アジャイルの未来を、共に切り拓こう！(2)【会場】 10/28
- ✓ データモデリングの達人が生成 AI を使いこなす【会場・オンライン同時開催】 12/10
- ✓ 東京海上日動システムズさんのアジャイル実践事例から、自社の取り組みを語り合おう【会場・オンライン同時開催】2026/1/29

## (3) 普及推進事業

### a. JUAS スクエア 2025

ユーザーカンファレンス「JUAS スクエア 2025」を、9 月 4 日(木)、1 日で、ハイアットリージェンシー東京にて開催した。昨年までの 2 日開催を、多くの方が参加しやすいように、1 日開催に変更している。

「想像を超えてその先へ～新たな価値創造への挑戦～」をテーマに、28セッションを実施した。事前登録は 1,130 名、実際の来場も、949 名と、1 日に集約した効果もあり、多くの方に参加いただいた。

基調講演、特別講演、基調パネルに始まり、JUAS 会員の IT 部門経営フォーラムや、IT グループ会社経営フォーラムが主催するフォーラムセッション、協賛企業によるコンサルティングセッションやランチョンセッション、テーマに即した事例を紹介するスクエアセッション、JUAS 活動の研究成果等を紹介するクローズアップセッションと、多彩な内容を展開した。イベント全般に対するアンケートの総合評価も好評であった。

また、開催翌週から9月末までアーカイブ配信も実施し、当日都合が合わなかった参加者にも情報やメッセージを届けた。

基調講演・総括パネルは以下の通りである(所属、役職等は登壇当時)。

- 基調講演(9/4) 「経営の羅針盤「SINIC 理論」と価値創造 ～未来からの変革～」  
立石 郁雄 氏 株式会社ヒューマンルネッサンス研究所(オムロングループ)代表取締役社長
- 基調パネル(9/4) 「変革のフロントランナーと考える、「価値創造」への挑戦」  
加藤 恭子 氏 全日本空輸株式会社 上席執行役員グループ CIO デジタル変革室長  
嶋谷 あゆみ 氏 東京ガス i ネット株式会社 取締役会長  
花田 琢也 氏 日揮ホールディングス株式会社 専務執行役員 CHRO  
モデレーター:  
島 健夫 一般社団法人 日本情報システム・ユーザー協会 専務理事

### b. イノベーション経営カレッジ

「企業と人の心を変革するイノベーション」を実現する人材を輩出・支援する場である、イノベーション経営カレッジを今年度も実施した。

IMCJ2.0 プログラムは、2025 年度(23 期)を、10 月～翌年 1 月にかけて、メインセッション(4 日×2 回)を、軽井沢プリンスホテルウエストで、総括セッション(1 日)を JUAS にて開催、20 社 21 名が修了した。

メインセッションでは、2 週間にわたり、17 名の CIO、CDO、有識者に講演いただき、気づき・考え方を共有した。JUAS で行った総括セッションでは、プログラムでの学びから今後の自身の変革プランを検討、発表し、参加者での課題意識を共有した。

IMCJ2.0 の修了生は 2025 年度で 381 名となった。

また、2024 年度に引き続き、2025 年度も 5 月に同窓会を開催、53 名が参加した。IMCJ2.0 の 9 期生でもある電源開発株式会社の中嶋嘉昭氏よりご講演をいただき、その後、ディスカッションと交流会を実施し、期を越えたつながりを深めた。

## (4) 調査研究事業

### a. ソフトウェア・メトリクス調査

「ソフトウェア開発プロジェクトの各種データを収集し、分析して、「メトリクス(基準値)」を提供していく

本調査は、会員からの意見等を集約し、調査の効率化とデータ鮮度確保の観点から、今後は原則、隔年での調査とする方針とした。これにより、2025 年度の調査を見送り、2026 年度に調査を実施する。

また、従来のソフトウェア・メトリクス調査は、ウォーターフォール型開発を中心としたものとなっており、昨今のアジャイルやパッケージ利用開発等を含めた環境変化を踏まえると、メトリクスの在り方を再検討する必要がある。よって、品質生産性に寄与する TIPS、メトリクス等について検討をしていく、ソフトウェア・メトリクス調査 2026 プロジェクトを上期に立ちあげた。今年度は TIPS となる考え方について調査を行う方針とし、アンケートを実施と事例紹介に基づく調査報告書を年度末に公開した。

## (5) 企業 IT 動向調査

1994 年から「企業 IT 動向調査」を毎年実施しており、今年で 32 年目となる。企業の IT 投資、IT 導入状況、IT 活用の実態、組織・体制等、経年的な動向とトレンドについて俯瞰的に調査するとともに、ユーザー企業における重要課題を「重点テーマ」と位置づけ、様々な角度から深く掘り下げ、解決に向けた指針を提言することを目指している。

調査委員会・調査部会を組成し、テーマ選定、調査内容の企画、分析、報告書執筆を実施している。

調査方法としては、経年変化を中心に動向の把握を目的としたアンケート調査と、取り組みを深堀するインタビュー調査を併用している。

本年度は、「人と AI で未来を創る、新時代の IT 部門像」を重点テーマに取り上げ、アンケート調査を 9 月～10 月に、WEB で実施し、957 社から回答を得た。

また 12 月に、ユーザー企業の IT 部門長 8 社 12 名の参加を得てオンライングループインタビューを実施した。報告書を執筆する調査部会メンバーと、IT 部門長が直接ディスカッションする事で、IT 部門長の肌感覚を定量調査結果の裏付けとして活用できた。

最終章の「総括と提言」は、調査部会全員のディスカッションを通じてまとめ、IT 部門が「DX・生成 AI 時代の来るべき企業変革をリードする存在」、「コスト・データ・人の最適化をリードする存在」、「事業レジリエンス強化をリードする存在」となっていくことを提言している。

※本事業は 2012 年度より公益目的支出計画の実施事業として行っている。

以上